

表 1 (つづき) ．災害時死体検案支援活動に関するアンケート質問項目

-
19. 死体見分と死体検案の手順
 a. 見分終了後に検案 b. 見分と同時に検案 c. その他 (具体的事項記入欄)
- 19-2. この点についての意見の有無
 a. ある。 b. 特にない。 (具体的事項記載欄)
20. 各県警等による死体取り扱い手順の相違について、戸惑いがないし疑問を感じたか。それは何か。
 a. あった。 b. 特になかった。 (具体的事項記載欄)
21. 検案時・検案後に特に精神的に負担を感じたことがあるか。それは何か。
 a. あった。 b. 特になかった。 (具体的事項記載欄)
22. その他検案実施全般についての意見
 a. ある。 b. 特にない。 (具体的事項記載欄)
23. 死体検案書の記載について、戸惑ったことや疑問に感じたことがあるか (項目別)。
 23-1. 死亡したとき・死亡したところ等
 a. あった。 b. 特になかった。 (具体的事項記載欄)
- 23-2. 死亡の原因・死因の種類
 a. あった。 b. 特になかった。 (具体的事項記載欄)
- 23-3. 外因死の追加事項
 a. あった。 b. 特になかった。 (具体的事項記載欄)
- 23-4. その他
 a. あった。 b. 特になかった。 (具体的事項記載欄)
- ・トピックに対する意見
24. 検案事例で解剖したほうがよい、あるいはしたらよいと思った事例があるか。
 a. あった。 b. なかった。
- ・ある場合、以下に回答
- 24-1. そのような事例の検案数に対する割合
 a. 1・2例のみ b. 5%未満 c. 10%未満 d. 20%未満 e. 20%以上
- 24-2. その理由。差し支えない範囲で具体的に (複数回答可)。
 a. 死因に関する問題 b. 個人識別に関する問題 c. その他 (具体的事項記載欄)
- 24-3. 血液試料などについて、すべきであると考えた検査があるか。
 a. あった。 b. 特になかった。 (具体的事項記載欄)
25. (質問項目は原文のまま) 今回の震災においては、DNA型検査用資料の採取について前もって一定の方針が立てられておらず、その後、血液の他に爪なども採取すること、さらには全例採取するという方針となってきました (必ずしも統一されてはいませんでした)。このことについて現場で混乱したことやお気づきになった点、またご意見等がありましたらお教え下さい。
 a. ある。 b. 特にない。 (具体的事項記載欄)
26. (質問項目は原文のまま) 警察庁によると、死体検案書および見分調書の記載から犠牲者の90%余の死因が溺水とのことです。これについてどのように評価しますか。またそれはなぜですか。
 a. 妥当と感じる b. 妥当とは思わない c. わからない (理由記載欄)
27. 今回の支援活動を通じての感想 (自由記載)
-

表 2. 災害時死体検案支援活動に関するアンケート結果 I

・回答者の属性

1. 年齢, 性別

年代	度数	(%)
20 歳代	5	(5)
30 歳代	30	(31)
40 歳代	32	(33)
50 歳代	24	(25)
60 歳以上	6	(6)

性別	度数	(%)
男性	73	(75)
女性	20	(21)
無回答	4	(4)

2. 死体検案・法医解剖の経験

	死体検案 (%)		法医解剖 (%)	
1 年未満	6	(6)	5	(5)
1 年以上 2 年未満	8	(8)	8	(8)
2 年以上 5 年未満	13	(14)	11	(11)
6 年以上 10 年未満	10	(10)	11	(11)
10 年以上	58	(60)	58	(60)
無回答	2	(2)	4	(4)

3. 監察医の経験および年数

有無・年数	度数	(%)
ある	47	(49)
1 年	3	(6)
2 年	5	(11)
3~5 年	9	(19)
6~10 年	12	(26)
10 年以上	18	(38)
ない	48	(49)
無回答	2	(2)

4. 派遣時期 (1 回目)・県

派遣初日	度数	(%)
3 月	61	(64)
4 月	22	(23)
5 月	12	(13)
6 月	1	(1)
無回答	1	(1)

派遣地域	度数	(%)
岩手	28	(29)
宮城	44	(46)
福島	25	(26)

5. 被派遣回数

回数	度数	(%)
1	54	(56)
2	28	(29)
3	11	(11)
4	2	(2)
無回答	2	(2)

・派遣について

6. 登録および派遣決定・通知における改善点の有無

	度数	(%)
あり	32	(33)
なし	62	(64)
無回答	3	(3)

7. 派遣前にあればよかった情報の有無, 有用であった情報のソース

	度数	(%)
あり	60	(62)
なし	32	(33)
無回答	5	(5)

表2 (つづき). 災害時死体検案支援活動に関するアンケート結果 I

8. 現地入りに関する各項目についての意見 (複数回答) 9. 現地での被派遣者間の情報交換・引き継ぎの状況

項目	コメントあり	(%)		度数	(%)
現地入りの手段等	15	(16)	十分	51	(53)
宿舎	19	(20)	不十分だが支障なし	25	(26)
各県警・警察庁の対応	23	(24)	不十分	8	(8)
その他	7	(7)	その他	6	(6)
			無回答	7	(7)

10. 「実働6日で、原則全員入れ替え」に関する意見：30件 (31%)
 11. その他、今後支援対策本部が設置された際の派遣の態様についての提案等：26件 (27%)

・検案の実施について

12. 被派遣検案所数

1カ所	3	(2)
2	37	(30)
3	25	(20)
4	17	(14)
5	17	(14)
6	20	(16)
7	1	(1)
8	1	(1)
9	1	(1)
無回答	1	(1)

(2回目以降派遣を含む)

13. 検案場所 (複数回答)

施設	度数	(%)
学校・体育館	91	(94)
工場・倉庫等	70	(72)
その他	24	(25)

具体的記載あり：40件

14. 電気・水道の状況 (複数回答)

電気	度数	(%)	水道	度数	(%)
送電あり	62	(64)	水道利用可	57	(59)
発動発電機など利用	50	(52)	断水・水道なし	56	(58)
なし	18	(19)	その他	4	(4)
その他	2	(2)			

15. 検案実施上、設備状況に支障を感じたか。 16. 検案時に便利だった携行品があるか。

	度数	(%)
あり	37	(38)
なし	54	(56)
無回答	6	(6)

	度数	(%)
あり	46	(47)
なし	45	(47)
無回答	6	(6)

(携行しなかったものを含む)

表 2 (つづき). 災害時死体検案支援活動に関するアンケート結果 I

17. 通常の検案用機材の他に必要だと考えられた機材等があるか。
18. 日本法医学会として常備しておくべきと考えられる設備・備品があるか。

	度数	(%)
あり	32	(33)
なし	58	(60)
無回答	7	(7)

	度数	(%)
あり	44	(45)
なし	47	(49)
無回答	6	(6)

19. 死体見分と死体検案の手順

見分終了後に検案	40	(41)
見分と同時に検案	31	(32)
その他	22	(23)
無回答	4	(4)

コメント：38 件

20. 各県警等による死体取り扱い手順の相違について、戸惑いがないし疑問を感じたか。

	度数	(%)
あり	28	(29)
なし	63	(66)
無回答	6	(6)

21. 検案時・検案後に特に精神的に負担を感じたことがあるか。

	度数	(%)
あり	35	(36)
なし	56	(58)
無回答	6	(6)

22. その他検案実施全般についての意見：36 件

23. 死体検案書の記載について、戸惑ったことや疑問に感じたことがあるか（項目別）。

死亡したとき・死亡したところ等

	度数	(%)
あり	27	(28)
なし	65	(67)
無回答	5	(5)

死亡の原因・死因の種類

	度数	(%)
あり	34	(35)
なし	59	(61)
無回答	4	(4)

外因死の追加事項

	度数	(%)
あり	9	(9)
なし	83	(86)
無回答	5	(5)

その他

	度数	(%)
あり	15	(16)
なし	75	(77)
無回答	7	(7)

表 2 つづく

表 2 (つづき). 災害時死体検案支援活動に関するアンケート結果 I

・トピックに対する意見

24. 検案事例で解剖したほうがよい, あるいはしたらよいと思った事例があるか。

	度数	(%)
あり	47	(49)
なし	47	(49)
無回答	3	(3)

そのような事例の検案数に対する割合

1・2 例	20	(21)
5% 未満	10	(10)
10% 未満	5	(5)
20% 未満	6	(6)
20% 以上	6	(6)

その理由 (複数回答)

死因に関する問題	39	(41)
個人識別に関する問題	10	(10)
その他	8	(8)

血液資料などについて, すべきであると考えた検査があるか。

	度数	(%)
あり	13	(13)
なし	65	(67)
無回答	19	(20)

検査項目	度数
CO-Hb	6
血液型	3
電解質	2
薬物検査	1

25. 今回の震災においては, DNA 型検査用資料の採取について前もって一定の方針が立てられておらず, その後, 血液の他に爪なども採取すること, さらには全例採取するという方針となっていました (必ずしも統一されてはいませんでしたが)。このことについて現場で混乱したことやお気づきになった点, またご意見等がありましたらお教え下さい (原文のまま)。

	度数	(%)
あり	54	(56)
なし	37	(38)
無回答	6	(6)

26. 警察庁によると, 死体検案書および見分調書の記載から犠牲者の 90% 余の死因が溺水とのことです。これについてどのように評価しますか。またそれはなぜですか (原文のまま)。

妥当	61	(63)
妥当と思わない	10	(10)
わからない	21	(22)
無回答	5	(5)

27. 今回の支援活動を通じての感想: 91 件

*表中特に断りが無い限り, 初回派遣の回答のみを集計対象とした。

災害時死体検案支援活動に関するアンケート結果 II（自由記載項目等）

- 具体的内容を記載する欄および自由記載項目等に記されたコメントを項目別に掲げる。
- 「2. 災害時死体検案支援活動に関するアンケート結果 I」で示したとおり、多くの項目において「特にない」「特になかった」の回答が過半数を占めており、個別のコメントは、少なくともすべて多数意見であるということとはできないが、今回の支援活動を検証し、今後の方針を策定する上で価値があると考え、できるかぎり原文を尊重して掲載するものである。
- 一部のアンケート項目について、回答者属性別に集計したものを示した。
- 質問本文は要約してある。冒頭にアンケート項目番号に示した。
- 集計結果について簡単なコメントを付した項目がある。
- 記述項目については同趣旨のものが多く項目では、件数とともに代表的意見を例示または要約して示した。回答者属性（派遣月は初回派遣時）を示したものは、無修正を原則としたが、一部句読点の修正や語句の追加を行った。なお、個人名および回答者の特定がごく容易になる情報は引用者の判断で修正または削除した。
- 回答内容を類型別にまとめた項目があるが、十分吟味した上で分類したものでは必ずしもない。なお、複数の類型に該当する内容を含む 1 件のコメントを 2 つに分割したものもある。

6. 登録および派遣決定通知における改善点（派遣月別）：

派遣月	コメント数	回答数	(%)
3月	28	66	42
4月	5	29	17
5月	4	21	19
6月	0	5	0
7月	0	1	0

- ・ 3月派遣者のコメントが有意に多い
- ・ コメント数：37件

3月（類型別）

派遣決定から出発までの時間に関するコメント

- 通知から派遣までの時間が 2 時間しかなかった。（ただし、それ以降は改善されているように思います）。
- 突然すぎる。24 時間程度の余裕が欲しい。
- 派遣決定の連絡が来たのは出発 2 日前であったが、当時の状況を考えると致し方ないと思う。
- 派遣決定から集合までの時間が短く、準備が大変だった。現地の状況がわからず、何を持って行けばよいのかわからなかった。
- 比較的直前にならないと分からないことがありました。希望者が多い期間や少ない期間がわかれば、それに従ってエントリーできたと思います。
- 事前にいつ頃かの通知が欲しかった
- 通知日から実際の派遣日まで、もう少し時間の猶予が欲しかった
- 派遣予定日を早めに連絡いただけるとありがたい。
- 派遣が直前の決定で、準備期間が取れなかった。また、派遣依頼を待っていたが最終的に依頼のこなかった同僚もいた。

人選についての意見

- 発災当初の当然ながら検案を必要とする遺体数も多い。しかし、中でも初回メンバーは検案数をこなすだけでなく、その後にも有効な派遣が行えるよう現地の状況把握を十分行う必要がある。そのためには、「我が我が」といった身勝手な思惑含みの会員ではなく、そうした意図を十分理解した会員を人選すべきだったと思われる。また、現地において状況調査に専念する要員も必要だったと思われる。
- 地震直後の初期対応は、行ける学会員が県警の検視係と伴に行き、その後、事後的に認定すべき。その後、エントリー式に切り替えればよい。初期対応に難点があったと思う。その後は、順調で問題はないと思う。
- 初期に検案経験のない先生がおられたと聞きます。移動中に、インスタント講義が行われたとも。急性期の対応としては未経験者の派遣は不適切と考えます。
- 最初に提示されていた際の被派遣者の条件から、「派遣可能」となり、私も希望し実際派遣されたが、死体検案の経験の浅さから派遣されるべきでなかったという考えの先生も多くおられた。医師経験年数や検案経験年数についての条件も提示する方がよかったのではないかと感じている。
- 登録者の資格や検案等の経験に関する基準等が明確でないように思われました。
- エントリーの資格も不明確であり、検案や解剖の経験に基準があるのか不明であった。また、エントリーすれば必ず派遣されるものでもなく、派遣の基準があいまいであった気がする。

被派遣者に関する情報不足

- 連絡先にかかっている先生に連絡したところ、被災地に既に行っていたので、連絡が取れなかった。確実に連絡が取れる先生の名前を教えて欲しかった。
- あらかじめ、同じ派遣グループの先生方の連絡先等が得られたらよかったと思います。持参物などの情報共有ができたかもしれません。

エントリー状況や派遣の有無についての情報不足

- エントリー方法が不明であった。どのフォームを誰宛に送ればよいのかわからなかった。また、平時から行っている災害派遣のフォームはほとんど役に立たなかった気がする。
- 初期はエントリーフォームがなかったため登録情報の収集に手間取っていた。
- 確実に（エントリーが）受理されたのか否かが不明確だった。
- 学会と縁遠くメーリングリストに入っていないので、エントリーの情報は無かった。1回目は知人に電話で方法を教えてもらい携帯電話を使ってエントリーを行った。2回目も、1回目と同様のエントリーを試みた。
- エントリー依頼が何度も来るので、以前に登録したエントリーがどこまで有効か分からず少し混乱した。
- ある期間中の派遣医が決まった段階で、その期間の派遣希望を出していた者に、その期間の派遣は無い旨を伝えていただければよかった。派遣希望を出していた期間は予定をずっと空けて置く必要があった。
- 派遣要請の通知を本人だけではなく、所属機関の責任者にも通知をしておくとういと思われる。
- 派遣不採用通知もあったほうがよいと思います。

登録方法に関する提案

- 調整の状況（どの時期に何人エントリーしている等）がわかればよりよかった（現実的には不可能かと思います）。
- 基本的にどのタイミングで派遣されてもかまわないが、できればある程度期間を絞ってエントリーしたいと考えた時に、リアルタイムで期間ごとのエントリー状況をネット上でも知ることができると、申請時期の決定がしやすくなるのでは。
- 一旦、当方の予定を連絡したあとでも諸般の事情によって予定が変わる。そのたびに地区理事の先生にお手を煩わせるのも気が引けた。また予定に優先順位をつけたかった。すなわち、何の不都合もない週、何とかできる週など。
- 結果的に地区理事はエントリの窓口であっただけで、地区理事宛てにエントリーする意味が不明であった。それ以上のことを尋ねてもなんら情報の提供を受けておらず、問い合わせ窓口としては機能していなかった。直接エントリーと何が違うかも分からず、結局、混沌状態であるのは承知で、本部に直接問い合わせることになった。混乱しているから問い合わせは控えて欲しい、というメッセージを地区理事に伝えるか、メールで流すなどすれば、良かったような気がする。
- 何か起きてからではなく、このような事態に備えて予め登録しておいた方が混乱が少ないと思います。

その他

- 通信の混乱状況、現地情報の取得困難、現場アクセス法の混乱等考えると、どのような方法であっても致し方なかったと思いました。
- こちらの希望が言える状態ではないし、一人一人の希望も聞いてもらえないので、あれでよかったと思う。
- メールを通じて的確に通知して頂きました。

4月

- 非常時なのでやむを得ないが、可能な限り早めに連絡が欲しい。
- 震災直後から、対策本部での派遣決定・通知に一本化されてよかったと思います。あえていえば、中盤以降はもう少し早めに決定・通知できれば、各自の予定がたてられやすかったとも思います。
- 終了してみればやむを得ないとも考えられるが、派遣決定や通知が特定の部署に集中していたので大変だろうと思った。このような作業は複数でやると混乱するので大災害の時は派遣決定、通知を専任でする方がいるとよい（スタッフが多く実際に支障なく対応できる機関）。

5月

- 遅い。わかりにくい。
- 出発の約3週間前に派遣決定の通知がきたので、物理的（本来業務の調整）・精神的な準備ができた。
- 既に地震発生2ヶ月が過ぎ、派遣までの一連の流れが確立されており、概ね、あまり問題は無かった。ただ、かなり時間が経ったので当時のことをよく覚えていないが、法医学会の対策本部から決定の通知がきた後、現地でどのようにするのか、派遣先警察から派遣医師への具体的なことの内容が不十分であったように記憶している。

- インターネットでの登録が主であったが、それ以外に、電話での意思確認もいただきたい。この際にインターネットでの登録を主体としていることやインターネット自体へのアドレス登録を案内いただけると良い。

7. 派遣前に必要な情報、有用な情報のソース（派遣月別）

派遣月	コメント数	回答数	(%)	
3月	46	66	70	
4月	17	29	59	
5月	9	21	43	
6月	2	5	40	・早期ほどコメントは多い。
7月	1	1	100	・コメント数は75件

3月

必要な情報

- 持参すべきもの（検案用具・日用品）：19件
- 宿泊先その他衣食住環境：8件
- 検案場所の情報・アクセス等：8件
- 現地の気候等：6件
- その他（帰郷方法、警察との関係等）：2件

（例）

- － 現場の状況や派遣時に持参していくものなどの情報がもう少し具体的であればよかったと思う。
- － 派遣地域の気候・派遣場所の状態（室内・屋外）・検案数・検案時に特別に必要であった器具。派遣された人から直接聞いたが、いなかった場合は情報は得られませんでした。
- － 現地の情報。混乱があるとはいえ、必要物品の指示がもう少し的確に欲しかった。最終2日くらいあれば次班が用意すべき物品のある程度の見当はつくはず。行ってみたらあれはたくさんあった、これは意外と減りが速い、など、行き当たりばったりすぎると感じた。物品、安全、検案の状況、宿泊・食料品の状況など前班からの情報を随時本部で吸い上げ、次班へフィードバックしてほしかった。

有用だった情報ソース

- 先行派遣者からの情報（直接照会・メール等）：12件
- 法医学会メーリングリスト：4件
- 現地大学からの情報：2件
- その他：1件

（例）

- － すでに現地入りしていた派遣班のメンバーからのメールによる情報が最も有用だった。
- － 現地の大学の先生方や先に派遣されている先生方からの服装や携行品に関するご助言、現地での活動状況などは大変参考になり、不安感が軽減されました。

意見・提案等（例示）

- 第一陣であったため現地の情報が全くなく、「体育館で宿泊し、簡易トイレを使用する」準備で赴きました。もう少し具体的な情報が（直前であっても）頂ければ、荷物を少なくすることができたかなと思いました。
- 個人の感想や主観に類するものの流布が、情報混乱の原因になったと考える。派遣チームのリーダーを本部で決定し、現場についての情報は、リーダーから本部に報告して貰ったのを配信するようにしていたらよかったのではないかと思う（混乱の本部がそうしなかったことを責めているわけではありません。今後のこととしての感想です）。
- 第一陣から第二陣、第二陣から第三陣と言う風に、現地における生の状況を伝達するタイミングを確実に行う必要があった。宮城では、第一陣から第二陣への申し送りを僅かな時間を用いて行っていたが、その最中に一部会員から身勝手な発言があり申し送りはやや中途半端になってしまった。また、持ち物（電池、ルンバール針等）は現地に行けばあると思いついていたが被災地では想像を絶する状態であったので、やはりそうした事前情報を、派遣先から帰着後のメンバーが legalmed に投稿する必要があったと思われる。
- 初期は現地の具体的な様子（何を準備して持って行くべきか？）は正確に伝わらない（例え先発隊のメールを読んでも）ので、あらかじめ最低限必要な品々（基本的な検案道具他）を普段から決めておけば、自分の使う分は持参できる。LM に流されるメールはないよりはあった方がましであるが、必ずしも自分が派遣される現地の情報ではない。
- 不足する備品、既にある備品について、情報があれば助かったかも知れませんが、それは不可能だったでしょう。概況を聞いただけで、現場での状況判断と創意工夫は、検案医の一つの能力だと思いました。
- 現地で不足している物品（検案に関する道具だけではなく、温度や環境に関するものも）について、現地の人の意見を聞くことができるといいと思います。法医学会の HP に掲示板でもあるといいかもしれません。
- 宮城では本庁にて待ち合わせでしたが、実際に待ち合わせ場所に対応される担当者名、連絡先等がわからず、不安でした。
- 特に混乱していた時期ではあったが、比較的十分な情報をいただけたと思う。

4 月

必要な情報

- 持参すべきもの（検案用具・日用品）：6 件
- ライフラインの復旧状況や衣食住環境等：6 件
- 検案場所の情報・アクセス等：2 件
- その他（入県方法、放射線量）：2 件

有用だった情報ソース

- 先行派遣者からの情報（直接照会・メール等）：4 件
- 法医学会メーリングリスト：1 件

意見・提案等（例示）

- 派遣先に食料があるのか、どこで寝るのか等、情報が少なく、過剰な備品を持って行くこととなった。「備えあれば憂いなし」ではあるが、予想以上に食料もあり、電気や湯の完備されているホテルに泊めていただき恐縮ではあるが、事前にもう少し情報が欲しかった。

- 前回派遣された先生に直接電話をして、教えていただいた。会員同士で情報共有できる場があったほうが良い（必要な情報を取捨選択できるように、メールではなく掲示板形式など）。
- 福島では駅交番にて待ち合わせでしたが、実際に待ち合わせ場所に対応される担当者名、連絡先等がわからず、不安でした。

5月（件数が少ないので集計省略）

必要な情報

- 現地での衣食住環境についての情報が欲しかった。また、検案に必要な資材についての情報。かなり余分に持って行った感がある（同趣旨4件）。
- 検案に必要な道具類の用意は必要か否か（同趣旨3件）。
- 自分も2回目の派遣で要領がわかっていた。

有用な情報ソース

- 派遣された常勤監察医の具体的な話が役立った。一方、legalmedで流れてくる情報は、どうでもいい内容も含まれていたように記憶している。
- 派遣日に申し送りがしっかりとしており躊躇はなかった。交通手段なども警察派遣調整の先生から丁寧にご案内いただいた。

8. 現地入りに関する各項目についての意見

現地入りの手段等に関する意見：15件

3月

- 初期は個人での現地入りが困難であり、今回のようにまとめて警察に移動を御願するしかないと思う。震災免除の飛行機も紹介されたが実際の座席の確保は難しかった。
- 現地入りの手段については、発災当初は機動隊バスであり大変きつかったが仕方がない。
- 護送車の乗りごごちが良くなかった。しかし、非常事態だからしょうがないだろう。
- 早朝現地に到着したが、車内待機であった。
- 第1期の場合、県警が現地入りするのに便乗できないか。災害直後が一最も検案医を必要とする。少しでも早く、現地入りすることが必要である（同趣旨3件）。
- 山形や東京に集合して現地入りすることになっていたのですが、東北隣県（青森・秋田）からは被災直後に現地入りする手段がなかった（電車不通、道路は緊急車両のみ）。そこで各県警と共に入る予定であったが、警察庁からストップがかかり身動きがとれなくなった。
- 現地入りはANAの無償便を利用させてもらい非常に役立った。また、空港にも現地警察の迎えがあり、助かった。個人的な礼状は送ったが、団体名で送れるとよかったかもしれない。

4月以降

- 忙しかったため仕方がないとは思いますが、警察庁からの集合場所等の連絡が発発3日前で、本当に派遣なのか半信半疑になりました。
- 派遣前において、派遣先警察から派遣医師への具体的なことの連絡がやや不十分な印象。ただし、現地に入ってからとはとくに問題はなかった。
- 現地集合ではなく東京集合としてほしかった。

宿舎について：19件

- 当初、雑魚寝も覚悟していたので、ホテルが確保されていることに少々驚きました。他の関係機関の方々は体育館などで寝袋などでやすんでおられるようでしたので、非常に申し訳なく思いました（3月、岩手）。
- インターネットが利用可能であったことが大変助かりました。種々の連絡のみならず、帰路の交通手段の確保などに役立ちました（3月、岩手）。
- 宿舎は立派なホテルを使用させてもらい食事も完備され、まったく問題はなかった。むしろ被災者に対して申し訳なかった（3月、宮城、同趣旨2件）
- 豪華な宿舎は要らないので、現地に近い拠点（元々被災地に入る気構えなので、シャワー等は主たる必要設備ではないと思う）（3月、宮城）。
- 宿舎については、山形県警にご協力を頂き安全を確保して頂いたと思うが、やはり毎朝・毎晩往復計2時間強を要した点は時間に無駄が生じたことは事実である。かといって、法医学会員が警察官とともに体育館に寝泊まりする体力・根性はなく、仕方がないかとも思う。阪神大震災時のように現地都市に宿泊ホテルを置けると良かった（3月、宮城）。
- 贅沢は言えないが、できれば検案場所に近いところがよい（3月、福島）。
- 当初、検案場所まで片道3時間の場所に宿泊していたので、実働時間が少なくなるだけでなく、我々を送迎する警察の負担が大きく、無駄が多いと感じました。派遣後半には近場に宿を移したため、ストレスが減りました（3月、福島）。
- 寝袋、テント、食料持参で出勤する準備をしましたがのに（3月、福島）。
- 豪華すぎる。罪悪感に苛まれた（3月、福島）。
- 宿舎も含め、もっと低レベルで良かったです（4月、宮城）。
- 宿舎はビジネスホテルで東電の職員が使用している為、カーペットに高い線量が有った（4月、福島）。

各県警・警察庁の対応：23件

- 良くしてもらいありがたかった、申し訳ない（同趣旨14件）。
- 仕方がない部分もあるが、指揮命令系統が機能していない（3月、宮城）。
- 県警は統制とれた状態ではなかった仕方がない。現地の派遣先等も当方のキャリアとは無関係に割り当てた観があるが、理想的にはフリーの会員が、翌日のメンバー派遣を県警と検討する場があって欲しかった。警察庁は身勝手な会員の申し出には一切耳をかさず、対策本部との申し合わせを遵守していた（3月、宮城）。
- 集合の期日、場所、手段の制限について、学会からの伝言だけであったにも拘わらず、直接依頼電話の時に、県警側に最終確認する意志がなかった。警察庁－県警本部－県警の現場との連携が悪かった。また宿舎に予約されていた日数は、対策本部から指定された派遣期間に足りず、どちらが正しいのかを現場責任者の警察官に尋ねても、何も知らないの一点張りであった（3月、福島）。
- 被災地と東京とのパイプは比較的保たれていたが、その他の地域との交通は寸断されていたので、派遣者の県警が送迎を担当してくれて助かった（4月、宮城）。
- 2回目は、現地スタッフなどにも慣れがあり、効率的な作業が行っていた。交通・宿泊地も改善されており、ありがたかった（4月、宮城）。
- 派遣前において、派遣先警察から派遣医師への具体的なことの連絡がやや不十分な印象。ただし、現地に入ってからとはとくに問題は無かった（5月、岩手）。

- 「これに対し警察庁より法令の適用による災害補償の確保、および交通手段・宿泊場所の確保および費用負担をするとの回答を得ております。」とありますが、これは対応がなされているのでしょうか。現在、交通宿泊費に関しては清算されておられません。これに関する連絡先も不明です（3月、宮城）。

その他：7件

- 放射線に関する対応・防御について情報が不足していたように感じます（3月、宮城）。
- 全体的にはよく準備されていた（3月、宮城）。
- 連絡の窓口は1本化しておいた方がわかりやすいと思います。決めていても臨機応変にすべきですが、リーダー、連絡係みたいな役割分担があれば、よりわかりやすかったかと思います（3月、福島）。
- 法医学教室の教授が連日朝来てくれたのでアドバイスをもらったり、意見を言えました（5月、岩手）。

9. 現地での被派遣者間の情報交換・引き継ぎの状況

コメントは計45件。「不十分」(8%)とした上での記載(7件)は3月の岩手・宮城に集中しており、引継ぎについては全く連絡が取れなかった、時間がなかった等の意見が5件ほど寄せられた。また初回なので引き継ぎを受けていない(2件)との記載もあった。

- 当初の引き継ぎが全くない状態での現地入りだった(3月、岩手、同趣旨2件)。
- 私は宮城県への第2回目派遣のみでしたので、他の場合は分かりませんが、先に派遣された班との情報交換の時間が短すぎる気がしました。最低半日くらいは必要だと思いました(3月、宮城、同趣旨4件)。

その他情報交換やコミュニケーション・ギャップに関する問題の指摘

- 現地に入った時に、法医学の中でも、「震災による溺死」の理解が曖昧な先生がいたような気がする。また、現地の医師の中に溺死を窒息にいれたり、災害死にせず、指導したがうまく理解を得られなかった(3月、宮城)。2回目はほぼ良好であった。
- 後続グループに経験不足の方が多かったのか、引き継ぎ内容を理解していなかった様であった(3月、岩手)。
- 比較的近傍でありながら、有線通信の遮断されていた隣の町の遺体安置所で、現地あるいは派遣された警察官が混乱するような内容の発現をした被派遣者がいて、一時死体見分業務が停止した事態が発生しました。隣の警察無線により状況を把握、対策本部と電話(当方は携帯電話使用可能)で死体検案方針を確認したのち、現地警察へ混乱収束のための情報を伝え、事なきを得たのですが、首皮一枚の状況で、通信が確保されていなかったらと思うとゾッとしました。引き継ぎは、文書によるものではなく、全て現地警察官個人のログブックのようなものを頼りに、その日その日の検案方針を決めていたと思います(3月、岩手)。

「不十分だが支障なし」(26%)とした上での記載(計13件、例示)

- 引き継ぎをするのか、しないのかが不明でした。自分の派遣期間の前後の先生方と面識がない場合、引き継ぎの連絡を取るときに不便でした(3月、岩手、同趣旨2件)。
- 引き継ぎは到着日の夜、先行班にとっては最終日の夜であり、十分な引き継ぎの時間が取れなかった。「行けばわかります。だんだん慣れます。」と言われ当初は不安であったが、実際その通りであった(3月、宮城)。

- 新幹線駅での短い引継で、十分とはいえなかったが、特に、問題はなかった（4月、福島）。
- 歯科などでは使用方法等やデータベース等で必要があったと思われるが、医師レベルではあまり必要ないと思われる（3月、岩手）。
- 岩手の場合はバラバラになってしまい帰投時間もまちまちだったのですが、（時期の問題もあるかと思いますが）あまり支障があるとは思いませんでした（4月、岩手）。
- 個々人の情報ツールに頼ることが多かったと思います。予め引き継ぎを考えて引き継ぎ担当者を作ったりという前記同様の役割分担、掲示板等があったら楽だったかと思います（3月、福島）。
- 特にミーティングという形での情報交換をしていなかったなので、誰がどのような状況で仕事をしているのか知る方法はなかったが、それで問題となるようなことはなかった（5月、宮城）。
- 特にミーティングはしなかったが、私も同時期に派遣された先生も3回目の派遣ということで慣れており、問題はなかった（6月、宮城）。
- 発見される御遺体の数が急激に少なくなったためです（3月、岩手）。
- 派遣メンバーの中に情報交換等に長けた先生がおられたおかげもあり、比較的十分であったと思う（3月、福島）。
- 引き継ぎ者とあまり面識がないため十分とはいえなかった（3月、宮城）。

「十分」（53%）とした上での記載（14件）

- 私の班は毎晩ミーティングを開き、情報交換は十分だった（同趣旨4件、3・4月、宮城）。
- 引き継ぎは重要である。メールでも良いのだが、人的トラブルの予防など一番知りたい情報はなかなか文字にできないのが残念（宮城、3月）。
- すでに現地入りしていた派遣班のメンバーから電子メールを用いて事前にある程度の情報を流してもらっていたので、十分だった（3月、宮城）。
- 稼働開始の前日に現地入りし、余裕を持って引き継ぎができたので、大きな問題はなかった（3月、岩手）。
- 現地では次にどなたがいらっしゃるか分からず、その先生方の連絡先も入手できないなかで、現地の警察の方々が連絡調整をして下さり、比較的円滑に引き継ぎの場がもて、必要な情報のやりとりはできたように思います（3月、岩手）。
- 死体検案に関してはそれほど引き継ぐ内容もなかったように記憶しています（3月、岩手）。
- 前の期のグループのメンバーから情報をいただきました。自分たちも得られた情報は全て伝達したつもりです。引き継ぎはあった方がよいと思いますので、引き継ぎを行うことをあらかじめ周知、徹底した方がよいと思います（3月、岩手）。
- 第1次派遣は、当然であるが、前の派遣隊からの引き継ぎはなかった。現地の法医学教室から情報を得た（3月、福島）
- 現地での引き継ぎに関しては時間も限られ、疲労もあることから、簡潔に要点をまとめて伝達できれば十分である。むしろ重要なのは事前の情報交換だと思う（3月、福島）。
- 岩手医大法医学の先生が、前回派遣チームとの引継ぎの場を設けてくださった。被災県の先生方の負担を少しでも減らせるように、学会および派遣チーム内でも引継ぎ手順などを明確化していきたい（4月、岩手）。
- 引き継ぎを兼ねた食事会がありました（4月、岩手）。

その他など（8件）

- 引き継ぎのまとめ役が不在で、井戸端会議の様な感じであった。引き継ぎの必要性ありという判断であったのか、県警に頼まれたのでという程度の漠然としたものか分からなかった。事情により引き継ぎには立ち会わなかった（3月、福島）。
- 初回なので引き継ぎも何もない。人間関係上の問題があり、被派遣者間での公式の情報交換はかえって逆効果であった（本部や職場とのメールのやりとりが非常に貴重だった）（3月、宮城）。
- 特別な情報交換はなかったが、支障を来すことはなかった（4月、岩手）。
- 次の班への引き継ぎを iPad から対策本部へ送信したつもりでしたが、うまく送信されておらず、申し訳なく感じています（3月、宮城）。
- 全般にとくに問題とはならなかったが、私自身、今更そんなこと説明されても、というレベルの引継をされたが、一方で、後任者は大学院生クラスで、検案書をろくに書いたことが無いようなのがきた。ある程度経験を積んだ医師と経験の浅い医師で引継も濃淡があるうかと思った（5月、岩手）。
- 受ける際は十分にしていただけました。こちらから後任の方へ直接引き継ぎが出来ず、申し訳なく思っていました。緊急時に連絡できるメールアドレスがあるとよかったかもしれません。または、ホームページを見るとわかるようなシステムとか（5月、福島）。
- 前任者に会えませんでした。法医学教室の教授が教えてくれたので充分でした（5月、岩手）。

10. 「実働6日で、原則全員入れ替え」に関する意見

総コメント数は30件（31%）。「全員入れ替えずに、何人か残せば、情報の引き継ぎ等がもっとうまくいったのではと感じられた」趣旨のものが11件あり、この中には初期の段階で「完全に交代ではなく、期をまたいで滞在されている先生が情報をつないで下さっていた。移動手段が許せば、半数交代の方が引き継ぎはスムーズだと思う」（同趣旨2件）との回答もあった。また「長期期滞在做る医師と短期のみの医師の混在も可能であれば派遣可能医師が増え一部の派遣医の反復派遣を軽減できる」等、参加者の増加を促せるという意見が3件あった。その他に「原則、全員入れ替えで可と思うが、現地でのコーディネータ的存在が必要かと思われ、その人物は交代メンバーとのダブリが必要と思われる」との記載があった。

実働6日については、「移動料金がかかるので、延長できる体力や日程の余裕がある場合は延長させてもらう方がありがたい」、「実働日数がもう少し長い方が（10日～2週間）効率がいいと思いました」と、より長いほうがいいという意見が2件あった一方、

- 勤務等の関係で短くしたほうがいいし、そのほうが参加者も増える（同趣旨7件）。
- 初期（混乱期）には短くすべき（同趣旨3件）、
- 6月頃からは、短期間の派遣があってもよかったのではと考える、

など、短いほうがいいとの回答は12件あった、

一方、概ね適当との意見は12件寄せられ、

- 本来業務への影響を最小限に抑えること、且つ現地での業務をある程度慣れてこなすことを両立させようとする、丁度いいバランスでは（同趣旨7件）。
- 事務的な手続きや、効率よい実働体制を考えると、適切であると思う。各自で派遣に応じられる期間をバラバラにする（人によって4日間は可能とか）のは好ましくないと思う。

- ホテル泊だったので長いとは思わなかった。交通機関の状況や現地の負担などから、頻繁な入れ替えは好ましくないと思った。」
- もっと長くできると感じたが、負担が重過ぎず適切な期間だったのかもしれない。1回で疲弊してしまったら、繰り返しの派遣に応じていただけなくなるかもしれないので。
- 初期は交通の便などの理由もあり、やや実働日数が足りなかった（もう少しはできたという感じ）がある。稼働状況、宿泊状況等にもよるが、初期を除けば原則1週間程度が妥当な期間と思われる。但し、当然のことながら発災当初は求められる検案体数も多いため、より多くの人員が必要であったかもしれない。このあたりは、検案数の変動を総括的に検討し、今後検討すべきと思う。
- 最初の1ヵ月は、今回の方式でよいと思います。初動の期間を1ヵ月又は2ヵ月と決めて、その後は、もう少しグループ化して、各グループ内でお互いの都合も考慮して派遣期間を決められてもいいかと思えます。

などとあった。その他、

- 本人の希望に沿った派遣日数で良いのではないか。
- 実働6日の意味が、説明が無かった。
- 初期派遣であったためと思われませんが、派遣終了後、スライド派遣が行われました。負担の集中やメンタルヘルス上の問題などを考えると、連続稼働日数には、制限を加えるべきではないでしょうか。第1期では、終了時期が明確ではありませんでした。派遣期間の事前確定は、他の業務を調整する上で必要と思えます。

との記載があった。

11. その他、今後支援対策本部が設置された際の派遣の態様についての提案等

総コメント数は26件。前項までの重複を避けて以下に掲げる。

- 初期には（安定期には必要ない）現地にはりついて、正確な情報の発信を現地→本部→MLと行う専従の者が必要。現地でのコーディネートを行う者（同一人でよい）がいると混乱が少なくて良いのでは？学会専用の衛星電話があっても良いのでは？メール（ML）で特定地域の情報のみが流されても、他の地域に派遣される人には混乱の原因となるので、きめ細かな情報発信が望ましい（40歳代）。
- ①現地状況把握のためのフリーな要員を置くこと、②フリー要員が期間をダブリ、現地での会員に適切な指示を与える、③初回メンバーは、非発災時から人数に余裕をもって人選しておく（50歳代）。
- 特に第1回目の派遣については、冷静沈着で現地とトラブルを起こしにくいメンバーを、予め選考しておいた方がいいと思いました。具体的な名前をあえて書きませんが、地元の医師と検案方法でトラブルになったり、引き継ぎ時に「こんな寒いところで・・・」と大声で不満を述べた方がいます（40歳代）。
- こう書くのも大変恐縮なのだが、初回の派遣メンバーが失敗すると後遺症が大きいことが身にしみてわかった。対策本部におかれては、（今回がギリギリの判断であったことは承知の上だが）初期の派遣人員をよくよく吟味戴ければ幸甚である。そのために1～2日、派遣を遅らせるのもやむを得ないと思う（30歳代）。
- 派遣の際、各クールごとの代表者を学会から指定する方が統率をとる上で円滑に進むと思われる（40歳代）。

- 一度の派遣が複数人の場合、本部で現地責任者を指名してほしい（50 歳代）。
- 検案経験の少ない方が経験を積むことも大事ですので、メンバーの人選の際には、ベテランと組み合わせるなど、検案経験の少ない方ばかりにならないよう、ご配慮をお願いします。登録の際に検案経験年数なども記載するようにしてもよいかもしれません（40 歳代）。
- 初期対応に問題があると思う。もし東京が大震災に遭えば、今回以上に初期対応に問題がでると思う。その場合、県警検視係と合同で動く方がいいと考える。その後の時期は、警察庁の対応でよいと思う（50 歳代）。
- 各県警検視班、法医学、警察医、警察歯科医などが県単位でチームになって動いた方が効率的で、慣れたスタッフ同士の方がチームの摩擦が少ないという意見があった（40 歳代）。
- チームワークが重要（雰囲気も含めて）なので、明らかにトラブルメーカーになりそうな人は除外して欲しい（30 歳代）。
- 派遣先が法医学会と医師会とで別々であったが、医師会と合同にしてほしい（30 歳代）。
- 近隣の警察医会にも参加希望者は存在していたので、学会派遣の形でも良いから短期受け入れも可とできるとより多くの参加者がいたと思う。ただし、検案医・検案歯科医輸送手段の確保などに課題は生ずるであろうが（50 歳代）。
- さほど重要ではないが、警察医との関係をどのようにするか、取り決めが必要と考える（60 歳以上）。
- まずとにかく迅速に第一陣を派遣できる体制が必要。予備登録なども検討の一案。派遣医師の用件を明確化して非法医学会検案医（警察医など）の扱いも総合的に調整できるとよい。自力派遣と送迎などの別も多角的に一次登録して調整できる複数団体協議会が必要か？（50 歳代）。
- 派遣決定後、極めて初期の段階で、現地入りしていた地区理事がいたように記憶しているが、派遣人員の調整等で支障は出なかったのだろうか？ ただちに現地に入ることも大切であるが、とりまとめ役が不在になるのはい如何なものか？（40 歳代）。
- 同格の副本部長が複数いるのは良くない。外から見て、指揮系統の中心が漠然と推測できただけで、正しい理解ができなかった。また、後世の記録として実質副本部長の貢献が相対的に低くなる（50 歳代）。
- 特に初期段階において、今回の経験が活かされることを期待します（50 歳代）。
- 情報開示をしっかりとって欲しい（40 歳代）。
- ホームページ、facebook 等を利用し、リアルタイムで派遣状況を伝えてほしい。現在誰がどこに派遣されているのかや、現地の状況などがすぐにわかるシステムが必要（30 歳代）。
- 検案人材の派遣に関しては基本的に今回のような形でよいと考えるが、物品や情報管理についてもう少し人員を充足するなり、平時からリストを作成して現地で派遣者が記入しやすいようにしておくなりして、今後はロジスティックな部分を充実させるべき（30 歳代）。
- しっかりと、説明可能なサポートシステムまたはサポート室が必要である（50 歳代）。
- 学会が全国の会員を一括管理しつつ、各都道府県内の通常業務は近隣大学間で十分相談する必要がある（20 歳代）。
- ノウハウの蓄積 → 分類 → 「チャート式」のマニュアル作成（読みやすいもの、携行しやすいものを望む（50 歳代）。
- メールでのやりとりだと、担当者が個々人の情報を入力する必要もあり大変だと思いま

す。簡単な物で構わないと思いますので、そういうオンラインシステムを構築しておいた方が楽かと思います（30歳代）。

- 今回は、広範囲な災害であったため、難しい面も多かったと思いますが、基本的には、今回の派遣方法をもとに、次のための派遣方法を数パターン決めておき、どのパターンかを選択できるようにしたいと思います（60歳以上）。
- 学会から2人派遣され、警察医、福島県立医大の医師があたった。場所は2カ所。0体の日が結構あった。法医学からは1人派遣でよかったようにも感じた。実際には無理だったのかもしれないが（50歳代）。

12. 被派遣検案所数

平均値を県別・月別に見ると宮城・福島は4月以降漸減傾向にあるが岩手では一定の傾向が認められない。集約化の状況や配置方針が関係していると推測される。

	3月	4月	5月
岩手	3.6	3.3	3.8
宮城	3.6	3.3	3.0
福島	4.2	4.1	3.7

13. 検案場所

検案場所となった施設については包括的なデータがあるが、選択肢に挙げた学校・体育館・工場・倉庫（閉鎖されていたものを含む）の他に、公民館・地域交流センターなどの公共施設、コンサートアリーナ、スポーツ総合施設、旧青果市場、警察学校、運動場の仮設テントなどが報告されている。

14. 検案場所の電気・水道の状況

各県の状況は、現地の調査や警察の記録によって詳細なデータが得られるものであるが、回答より推測される状況を以下に記す。

電気：

岩手 3月には全くないところもあり、発動発電機等を使っているところもかなりある。4月にはいっても電気が得られないところがあるが、発動発電機等が行き渡っている。5月には改善している。

宮城 3月は全くないところがあり、4月・5月になっても発動機が多いことが伺える。

福島 発動発電機の使用は少なく、通電状況は比較的良好だったと考えられる。

水道：

岩手 3月には利用可能なところと不可能なところが混在し、4月に徐々に復旧している（利用可能なところに集約された？）が、5月でも一部断水している。

宮城 3月はほとんど利用不能で、給水、汲水などを利用、4月になって少しずつ復旧しているが、5月も一部は断水している。

福島 一部断水という検案所があった。

15. 検案実施上の支障

「支障あり」の回答は2回目派遣以降を含めると40件（33%）、これを含めてコメント数は計48件で、3月に集中している。全コメントを以下に示す。

照明・水・寒さ等（13件）

- 電気がないと日没後の作業が出来ない（3月、岩手）。
- 日没と同時に検案を終了しないといけない。多数のご遺体を目の前にして終了せざるを得ないのは残念だった（3月、岩手）。

- 薄暗いので、外表所見の見落としがありそうに思った（3月、宮城）。
- 暗い（3月、宮城）。
- 照明が不十分な検案場所があったこと（5月、宮城）。
- 照明が暗い場所が多かった。屋外の場合、寒風が辛い場所もありました（4月、宮城）。
- 仕方の無いことではあるが水が少なく遺体に泥が多くついていて（3月、宮城）。
- 寒い（雪が降っていた）。時期の問題かつ検案場所（老朽化している、既に廃校となって数年経っている等）の関係で、暖房器具が十分でないのが辛かった。が、状況を考えれば仕方ない（3月、宮城）。
- 寒くて手が動かなかったが、しかたがなかった（3月、宮城）。
- 暗い（3月、福島）。
- 照明が暗かった（3月、福島）。
- 遺体を洗う多量の水の確保照明の不足暖房器具（3月、宮城）。
- 寒さ対策（3月、宮城）。

施設について（3件）

- 新しく設置された検案所（テント）がとにかく狭く、やりにくかった（6月、宮城）。
- 検案場所によっては仮設トイレの使用を強いられ、不便である（止むをえないことであるが）（3月、岩手）。
- トイレが仮設トイレであった。しかし、短期間なのでやむをえないとおもった（3月、宮城）。

遺体安置所との分離が不十分（6件）

- 警察の検視は目隠し用の仕切りができていたが、検案はオープンなスペースでやらざるを得ない場合があった（3月、岩手）。
- 大規模災害の検案活動では常識であるが、死体と遺族が交錯しない動線作りが当初できていなかった。心血採取をしている横に遺族が顔貌確認に来たりしていた。岩手医大法医学の教授にその旨申し出て、以後改善された（3月、岩手）。
- 安置所の中で検案をすることがあり、家族・知人を探している人等が目につくところで検案を行った（3月、岩手）。
- 仕方のないことですが、卓球台で区画分けをしていたので御遺族から検案しているところが丸見えになってしまっていました（3月、岩手）。
- 水の使用等および遺族との分離が不十分なこと（4月、岩手）。
- 居住区と近い。一般人が検案および遺体を洗うなどを、見ることができてしまう環境に違和感があった。隠してあっても、風などでテントがまくれたりする事があった（3月、宮城）。

検案台等（8件）

- 場所によっては検案台があると良かったです（3月、岩手）。
- 検案台が足りていなかった。無くても検案はできるが、あったほうが警察も我々も身体への負担が軽くなる（4月、岩手）。
- 贅沢ですが…、倉庫では台が使われていなくて見づらかったです。腰に負担…。他は台の上で見れたのですが（5月、岩手）。
- 御遺体を検案する際の台（机等）がある方が作業がやりやすかったです。もちろんなくても支

障がある程ではなかったが（3月，宮城）。

- 台があると検案しやすい。ヘッドライトがあると検案書を記載し易い。検案で爪を採取するのは特例とは言え、問題を感じた（3月，宮城）。
- 検案台がないところがあった（3月，宮城）。
- 検案台があればよかった（3月，福島）。
- 死後変化が進行した時に、木枕など必要と感じた（4月，福島）。

検案用具・設備（6件）

- ルンバール釘が各県警で異なっていて、ある県警のものが使いやすかった。家から出たのでピンセットを持っていなかったが、現地で別の先生から借りた（3月，岩手）。
- 18G×90mmのスパイナル針，および20mlシリンジ。心臓穿刺による血液採取は，3/22日の宮古市千徳地区体育館での検案でも可能でした。濃厚な血液吸引にはこの針と吸引力の発揮出来る20mlシリンジが必要だと思いましたが，当初これが不足し，採血に苦労しました（3月，岩手）。
- 心血採取時には，通常と異なるかなりゲージの太いものを必要とした（3月，宮城）。
- 検案に必要な照明，台，目隠し，遺体運搬用具，コピー機等は全て整っていた。最も不足したものは，ゲージの太いルンバール針であった。ある県警係員は，ルンバール針が不足していたため，DNA解析用心臓血の採取を使い回しのルンバール針で行っていたが，現場では既にルンバール針の余分がなく，仕方ない面もあった。爪を剥がして試料とすることを指示するまでの，僅かな期間であった（3月，宮城）。
- 現地にあるといわれて持参しなかったピンセットが，先の合わないようなものだったりしたり，無鉤だけしか用意されていなかったりした。持参したので支障は無かったが，小さい注射筒や細い注射針しか用意されていないこともあった（3月，福島）。
- DNAの採取の手段。その手順など不明であった（3月，岩手）。

その他（2件）

- 検案医師以外は放射能被爆対策がとられていたが，派遣医師にはそのような対策が講じられていなかった。放射線量のモニタリングを専門家が行うべきである（3月，福島）。
- 自衛隊による復旧作業に伴って発生するホコリと，大量のお線香の煙が体育館に立ちこめ，気管支喘息のような呼吸器症状に陥った。換気設備が現地で無理なことは承知しているが，お線香を焚く場所（＝安置所）と，検案場所は，分けられないか。私以外にも，（元々，喘息のある先生ではあるが）現地で激しく咳き込んでいたと聞く。ちなみに，私は平素，喘息はありません（4月，岩手）。

「支障なし」に添えられたコメント（10件）

- 仮設場所で検案を行ったので，暖房，水，電気，食事など不便であったが，今回は災害の規模を考えると想定の内と考える（3月，宮城）。
- 電気，水道。しかし，仕方なし（3月，宮城）。
- 贅沢は敵だ（3月，宮城）。
- あったけれども，状況を考えて致し方なく思います（3月，宮城）。
- なければならぬとやらなといけないと思いましたが（3月，宮城）。
- 特に検案にあたり，不足する器材はなかった（3月，福島）。
- 極限状況下で支障がどうのと言っていない（3月，宮城）。